

# 茨城県生協連ニュース 臨時号 No.22

## 茨城県豪雨災害復興関連情報 がんばろう！

2015年10月4日 発行:茨城県生活協同組合連合会 水戸市梅香 1-5-5JA会館分館 5F 電話 029(226)8487

茨城県生協連の常総市災害ボランティア参加報告 2015.9.28 CN共済センター 植田

6日(土)、茨城県生協連のボランティア募集に応募して、常総市へ行ってきました。鬼怒川の決壊から2週間が過ぎましたが、市内各所には瓦礫・ゴミが集積され、倒れかけた家や囲いがそのまま残っている場所もありました。参加者を乗せたバスは、朝9時ころに常総市ボランティアセンターに着き、団体受付だけ済ませると、すぐ玉地区サテライトのテントへ直行しました。個人で受付する場合は朝7~8時ころから長い列に並び、現地に11~12時ころに着くケースも多いので、やはり団体での参加はとても効率的でした。

サテライトで5名ほどのグループに分かれます。住民のニーズ表を渡され、電話で本日訪問の都合を伺ってから、スコップや一輪車を持ち、徒歩で約20分のYさん宅へ伺いました。まわりの畑は砂をかぶってほぼ全滅。梨の果樹園も葉や実の高さまで水に浸かったようです。田んぼはゴミや砂利が流れ込み、あぜも崩れて、残った稲も容易には刈り取れないそうです。これを機に離農する家もあると聞きました。

Yさんのお宅は鬼怒川のすぐ近くですが、幸いご家族は、若宮戸の自然堤防越水の時点で、朝早くに避難していて無事でした。住居も、川との間に森があるために浸水を免れました。しかし、農機具を入れていた小屋と、道路に面したブロック塀がすべて流されてしまいました。収穫したばかりの米を入れていた小屋も水に浸かり、ほとんど駄目になってしまったそうです。ボランティア活動はひたすら、敷地内に流れ込んだ川砂をシャベルですくい、一輪車に積んで運ぶ作業でした。5名が5時間やっても限界があります。Yさん宅にはすでに何日もボランティアが入っていましたが、まだニーズは続きそうです。敷地内が終わったら、次は田んぼをお願いしたいとおっしゃっていました。

Yさん宅。この場所に小屋があり、道路との間には塀がありました。すべて流されてしまいました。写真のトラクターは使えるようになりましたが、田植え機とコンバインは全損だそうです。

(Yさんの許可を得て撮影)



Yさん宅の裏。奥の左のほうへ伸びているのが、先日完成した仮設堤防。その向こうに鬼怒川の土手があります。右手前にあるのがYさん宅の、つぶされてしまった苗床用のビニールハウスです。

<お問い合わせ>茨城県生活協同組合連合会(担当 古山・鈴木・原) Tel 029-226-8487 Fax 029-224-1842

[Mailibkenren@ibaraki-kenren.coop](mailto:Mailibkenren@ibaraki-kenren.coop)

以上

